

平成 29 年度（第 3 期）
里山笑楽校活動計画書（案）

1. 活動の目的

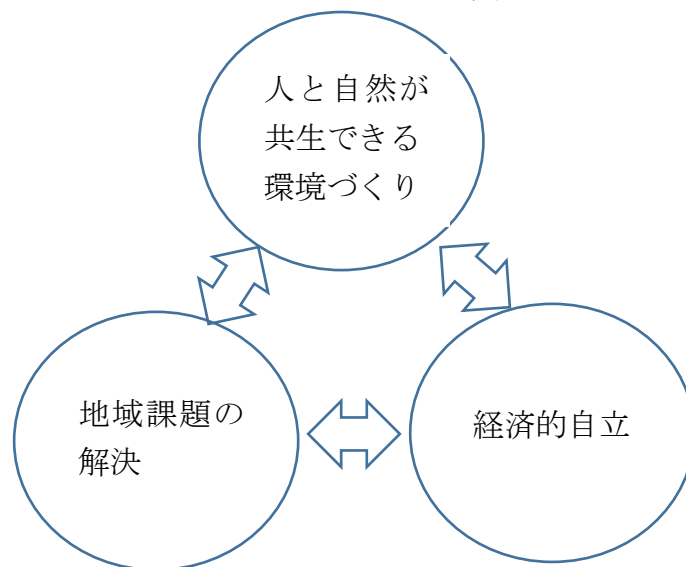
里山笑楽校の目的は、都市と農村、上流域と下流域の交流によって経済と環境の両面において持続可能な地域モデルを創り上げる事である。山王寺棚田は、斐伊川水系の上流域に位置し簸川平野、宍道湖、中海の環境に影響を与えている。山王寺棚田をモデル地域として、下流域の都市住民に棚田保全活動に参加してもらう事で耕作放棄を減らし、地域に賑わい創り出す。そして、農薬・化学肥料を使わない農業を実施する事で宍道湖・中海の環境保全を目指す。後は難しいことを考えない。基本は「笑って・楽しく・学ぶ」ことである。

2. 平成 29 年度主力プロジェクト（出雲國まこもプロジェクト）

本プロジェクトは「まこも」栽培と六次産業化を通じて以下の事を目指す。

- ①休耕田を活用して農薬や化学肥料を使わない農法により斐伊川水系の環境を保全する。その事で「人と自然が共生できる環境づくり」を目指す。
- ②「まこも」栽培の支援者（外部若者）を増やすことで「地域の課題解決」を目指す。
- ③「まこも」のブランド力向上と六次産業化により「経済的自立」を目指す。

プロジェクトのイメージ図



本プロジェクトは、島根県社会貢献基金を活用する。

3. 具体的な活動

- ①人と自然が共生できる環境づくり

「冒険の森てんば」を中心に耕作放棄地 1 ha を「まこもの田んぼ」或いはビオトープに戻す。ビオトープにおいてはコウノトリなど斐伊川水系にて生息・繁殖・越冬が期待できる大型水鳥の飛来を目指す。そして、その環境を持続的に管理が出来る仕組みを創ることで他地域のモデルとなる。

ビオトープでの自然調べ



②地域の課題と解決に向けた取り組み（CSA）

山王寺の棚田は、雲南市大東町の北東部標高 300m の山腹に位置し、面積 19ha、棚田数約 200 枚を有していることから平成 11 年「日本の棚田百選」に認定され 38 軒の農家によって守られてきた。しかし、高齢率 53% の現実には耕作放棄地の増加、そして棚田の消滅へとつながる事は確実である。棚田を失う事は山王寺という小さな地域の問題ではない。斐伊川水系の上流域に位置する棚田の荒廃は下流域にある宍道湖、中海の自然環境を悪化させる原因となる。

解決策は、活用する事以外にはないが、地元だけでは解決できない。下流域に位置する松江・出雲圏域の住民の参加が必要である。お互いに利益を感じながら楽しく参加できる活用モデル CSA に取り組む必要がある。

（取り組み）

CSA(Community Supported Agriculture)

都市住民の多様な人材の参加による農業振興や農地保全への展開を行う事。

（事例）

既に、2015 年より松江市公民館中央ブロックのみなさんにより約 30a の耕作放棄地を開墾してオーガニックコットンの栽培を行ってきた。栽培した綿は高齢者施設で種繰りを行い、その綿を利用して糸紡ぎ教室を行っている。

本プロジェクトでは「コットン栽培」の継続と共に「まこも栽培」、「ビオトープづくり」などに拡大することで棚田の保全につなげたい。

③経済的自立

活動を持続するには経済的な自立が必要である。既に田んぼを活用して「まこも」の栽培と製品試作を行ってきたがコストパフォーマンスに優れている事が分かった。

「まこも」にフォーカスした経済的戦略は環境と経済の両立を可能とする。しかし、最大の課題は「まこも」の知名度が低い事である。ブランド化の推進が必要である。そして、ビオトープと「まこも」を活用した田舎ツーリズム（ヘルスツーリズム）を企画する。

①ブランド化の推進⇒島根県のブランド推進室との連携

②機能性の分析⇒島根県産業技術センターへの依頼

③商品化に向けた取り組み

まこも茶の製品群を増やす。⇒お茶屋さんとの協業

パウダーの活用方法を増やす。⇒お菓子屋さんとの協業

新製品の開発⇒要検討

④生産者、加工業者、販売業者の連携⇒「出雲国まこもの会」の立ち上げ

⑤田舎ツーリズムの案内に使える「冒険の森てんば」メニューチラシ作成

4. 事業スケジュール

①「ビオトープ」づくりを通して里山の活用モデルを創る。

冒険の森てんば周辺の沼地は、かつては田んぼとして耕作されていたが10年以上放置されカヤで覆われている。山林も竹林と混雑して鬱そうとしている状態である。これらの面積は約1haあるが、この場所を「まこもの田んぼ」ビオトープとして環境整備することで人と自然の共生するエリアとする。このエリアは上流に民家がなく絶えず湧水が流れ込む場所にある。林地の沼地を往来するカスミサンショウウオの生息地でもあることから多様な生物の生息地として適している。いずれコウノトリやトキの飛来を夢見ながら長期の活用を目指したい。

②環境整備しても活用しなければ再び荒廃する。

「冒険の森てんば」昨年7月より空き家を借り受けて子供たちの遊び場（森のようちえん）、研修施設（森のオフィス）、田舎ツーリズムの会場として活用している。次の展開として飲食業の許可を得て「棚田カフェ」をオープンする。

③「まこも」の知名度をアップさせるために以下の活動を実施する。

ブランド化の推進⇒島根県のブランド推進室との連携

機能性の分析⇒島根県産業技術センターへの依頼

まこも茶の製品群を増やす。⇒お茶屋さんとの協業

パウダーの活用方法を増やす。⇒お菓子屋さんとの協業

④広報活動

活動を多くの人に知ってもらう為の案内チラシ

ビデオ映像により広報（youtube）

⑤2017年の結果に基づき2018年と2019年の計画を決定する。